

【魚道のモニタリングと順応的管理】

魚道のモニタリングは、遡上の効果を検証するため、魚道の上流側出口にトラップ（定置網、四つ手網等）を一定時間設置して、遡上する魚類を捕獲確認する方法と、魚道上流側の水田・水路でタモ網やサデ網を用いて魚類を捕獲し、遡上後の魚類の定着を確認する方法があげられます。また、大型の魚類などにおいては、直接、遡上を目視で確認する方法もあります。捕獲した魚類は、魚種と個体数、体長等を記録します。継続的に調査を実施し、記録を残すことも大切です。

魚類の遡上を確認されない場合や遡上数が少ない場合は、設計や魚道内の流量に問題はないか、土砂の堆積やゴミの引っかかりがないかを確認したうえで配慮施設を改善し、再度モニタリングを実施します。



水路魚道の上流端に四つ手網等を設置して、遡上する魚類を捕獲確認します。



魚道の上流側で、タモ網やサデ網を用いて、遡上後定着した魚類を捕獲確認します。

魚道のチェック項目と改善策

配慮施設の種類の		チェック項目	改善策	
全工法共通		設計に問題がないか？	勾配、堰板等の高さ、入り口の見つけやすさ等について再検討する。	
		魚道内の水量が保たれているか？	魚類の体高の 7 割程度の越流水深を確保する。	
		土砂の堆積やゴミの引っかかりがないか？	土砂の浚渫、ゴミの除去を行う。	
工法別	水田魚道	①隔壁型(千鳥 X 型)	堰板の高さ、角度は正しいか？ 堰板の浮き上がりはないか？ 木製の堰板の腐敗はないか？	堰板のメンテナンスを行う。
		④波付き管	遡上口の先端は沈んでいないか？	フロートを付けるなどして、遡上口を水面に浮かすように設置する。
	水路魚道	⑥隔壁型(千鳥 X 型)	堰板の浮き上がりはないか？ 木製の堰板の腐敗はないか？	堰板のメンテナンスを行う。
		⑧片斜面粗石付魚道	粗石へのゴミの引っかかりはないか？	ゴミの除去を行う。

次ページから、魚道の各工法について解説します。▶▶